



ミドルリーダーの挑戦
—前へ! 前へ!!

現状に満足することなく、常に向上心を持ち、周囲から学び続ける

長崎県 長崎市立西泊中学校 角家理恵子 41歳



Middle Leader

かどや・りえこ◎教職歴18年。長崎市、吉岐市の中学校に4年間ずつ勤務した後、長崎大学教育学部附属中学校で8年間教壇に立つ。その後、長崎市立西泊中学校に赴任して3年目。担当教科は英語。教務主任。

これまで私が歩いてきた道のり

他者から学ぼうとする心と
思いを受け止める大切さを
学んだ

教職9年目に赴任した長崎大学教育学部附属中学校では、さまざまな教科の研究授業に参加し、生徒に考えさせるための発問や板書の仕方など、いろいろな先生の実践から自分の授業を更に改善するための視点を得ることが出来ました。大きな気づきだったのは、他教科であっても、意見を率直に述べるのが、授業を見せてもらったことへの感謝の意につながるという考えです。同時に、改善に結びつく建設的な発言をする

ためには、「何を目指して、どのような状況の生徒に向けて行われているのか」をしっかりと確認した上で、研究授業に参加しなければならぬということも理解しました。

附属中学校では、教育実習生を指導する場面が多く、当時、各教科で4〜5人、さらに担任する学級で7〜8人が配当され、実習期間中は教科指導や学級経営を常に公開します。そうした中で、自分を良く見せようとする必要はなく、だめな部分を見せることも実習生にとっては学びになると気付きました。未熟さはあるけれども、挑戦しよう、工夫しようという実習生の熱意は、私にとって

も刺激となりました。

現状に甘んじなければ
授業改善には
終わりが無い

授業や学級経営以外でも、気付きはたくさんありました。例えば、以前の私には、校務を行う際に効率性を重視する傾向がありました。「こうすれば、もっと円滑に進められるのに」と思いを口にした私に、ある先輩が「それは正しいと思う。でも、遠回りをして違う景色を楽しむ余裕があれば、もっと成長できると思う」とおっしゃったのです。その言葉には大変意味深いものがあり、自分の未熟さに気付かされました。それ以来、その言葉は心の中にずっと残り、今でも折に触れ、立ち止まって考える指針の一つとなっています。

附属中学校には8年間勤務しましたが、いちばんの学びは、「目の前の生徒を見極めた上で、何をどう働き掛けるかを十分に考える」ということです。経験を重ねると、そうした見極めが曖昧なままでも授業が成立するようになります。しかし、生徒をしっかりと見て、どのような力身に付けさせたいかを突き詰めるこ

とで、授業で使う資料一つをとって
も、数ではなく質が大切なのだとか
り、精選する方針が明確に見えて

今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

周囲の気持ちを高め、 力を引き出す存在に なりたいたい

公立中学校に戻った今、これまで
以上に向上心を持って、生徒と向き
合っていきたいと考えています。教
科指導では、英語を伝える有益性や
楽しさを伝えるように心掛けていま
す。多くの中学生にとって、実生活
で英語を使う機会は多いとは言え
ず、入試のために英語を学ぶのだと
考えている生徒も少なくないでしょ
う。しかし、中学時代に英語に親し
み、英語を「使える」「使おうとする」
素地を培えば、社会人になって英
語を習得する必要性に迫られた時で
も、新たな視点で学習を始めること
が出来ます。そうした思いで、授業
の冒頭に生徒が選んだ英語の歌を歌
うなど、英語が苦手な生徒も英語を
楽しめるよう工夫を続けています。

きます。現状に甘んじなければ、授
業や学級経営の改善には終わりがな
いのだと気付きました。

現任校では、教務主任をさせてい
ただいています。卒業式や入学式の
司会進行では、生徒の人生の節目と
なる厳粛なセレモニーとなるため失
敗が許されないという緊張感があり

ますが、生徒が気持ちを高められる
ように当日まで準備をして臨み、生
徒の晴れやかな笑顔を見ることは教
師冥利に尽きます。また、教育課程
の推進については、多忙な先生方が
じっくりと教育計画を作成できるよ
う、時間的な余裕を持って声をかけ
るなどの配慮を心掛けています。

私は良き先輩に恵まれてきたと強
く感じます。例えば、現任校の校長
の長谷川良子先生は、生徒たちの活
動の成果物や、学校のウェブサイトを
印刷したもの、「学校だより」など
を生徒の目に触れるところに掲示
して心の教育を行うなど、アイデア
と実践力が豊富です。しかも、私た
ち職員の熱意を引き出すような声掛

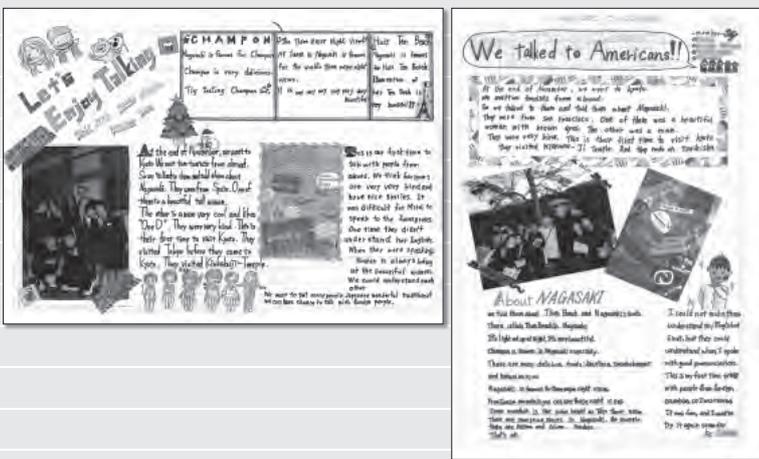
けをされます。私も、長谷川先生の
ように、一緒に働いている人のやる
気を引き出せるような存在になりた
いと思います。「生徒のためにこれ
をやってみよう！」と先生たちが思
いを語り合える職場にすることで、
生徒たちが生き生きと活動する学校
を創造する一助となるよう、さまざ
まな提案をしていき、教務主任の仕
事を楽しみたいと思っています。

中学校教師が生徒に関わることが
できるのは、わずか3年間です。し
かし、生徒の人生は卒業後も続きま
す。3年間だけを見るのではなく、
その後を意識して指導することが重
要だと、社会人になった教え子と再
会するたびに強く感じます。
生徒の「これから」を見据えて、「生
きる力」を育む教師であるよう、私
も学び続けたいと思っています。

長崎の魅力をアピール

角家先生の取り組み

◎長崎県は、発信力の育成を大切にした教育を展開しています。本校でも、ふるさとの良さを知り、魅力を英語でアピールする活動を英語の授業に3年計画で設定しました。1年生では長崎や自分の町の魅力を日本語で作文にまとめ、2年生となった今年度は、長崎の魅力を紹介するコラージュ作品を見せながら、修学旅行先の京都で外国人観光客を相手にPR活動を行いました。



修学旅行先の京都で、英語で長崎の魅力を外国人に説明した体験を写真や英文でまとめた。3年生では、英語での作文とスピーチを計画している。